

2018年2月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500 hPa 高度をみると、極付近は正偏差で、対流圏の極うずは東シベリア側と北米側に分裂した。中国北東部で負偏差がみられたほか、太平洋～北米で波列パターンが卓越し、アラスカの南、北米東岸で正偏差、カナダ北部で負偏差が顕著だった。また、ヨーロッパ～中東でも波列パターンが卓越し、ヨーロッパで負偏差となった。200 hPa 風速をみると、亜熱帯ジェット気流はユーラシア大陸上で平年と比べて南寄り flowed。海面気圧は、ヨーロッパ北部～西シベリア、アラスカの南で正偏差が明瞭だった。アリューシャン低気圧は北西側に寄って、カムチャツカ半島付近で強かった。850 hPa 気温は、北極海の広い範囲で高温偏差となったほか、米国南部～東部でも高温偏差が明瞭だった。一方、東アジア、北米北部、ヨーロッパで低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、フィリピンの東海上～南太平洋中部、北大西洋～北アフリカで活発、南インド洋～南太平洋西部で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、太平洋中部～インド洋西部を東進した。対流圏上層では、北太平洋中部～北米、ヨーロッパ～アラビア海で明瞭な波列パターンがみられた。インド洋西部では南北半球対の低気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、インドネシア東部～日付変更線の東側で、南北半球対の低気圧性循

環偏差となった。海面気圧は、インド洋、太平洋中・東部で正偏差、太平洋西部、大西洋～アフリカで負偏差となった。南方振動指数は-0.3だった。

世界の天候

2018年2月の世界の月平均気温偏差は+0.18°C（速報値）で、1891年の統計開始以降、7番目に高い値となった。2月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.80°C/100年（速報値）である。

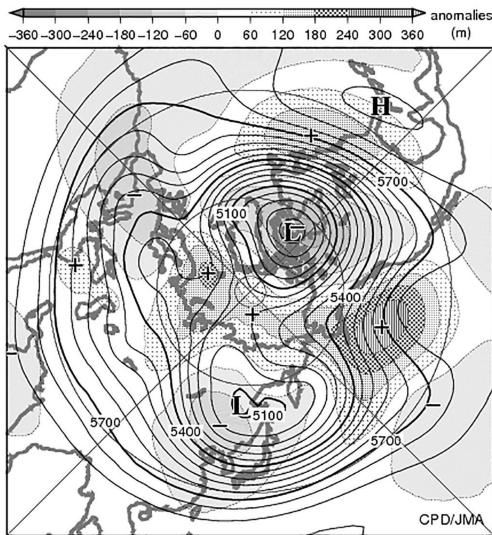
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- アラスカ北西部～東シベリア西部、ロシア北西部～グリーンランド東部、米国東部～メキシコ西部、オーストラリア北部及びその周辺で異常高温となった。
 - 英国南部～ドイツ西部、米国北西部及びその周辺で異常低温となった。
 - ヨーロッパ南部及びその周辺、米国北東部～南部、ブラジル中部及びその周辺で異常多雨となった。
- （気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ

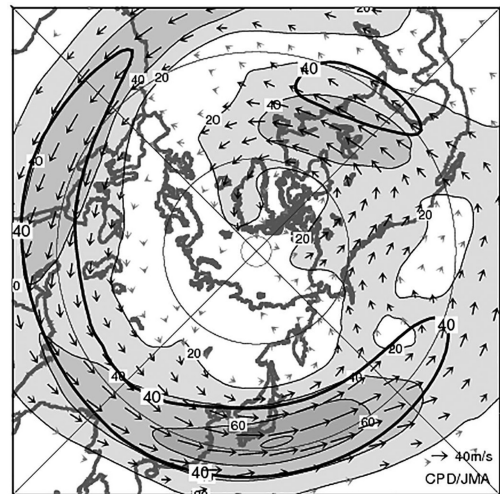
「気候系監視速報」をご覧ください。

<http://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



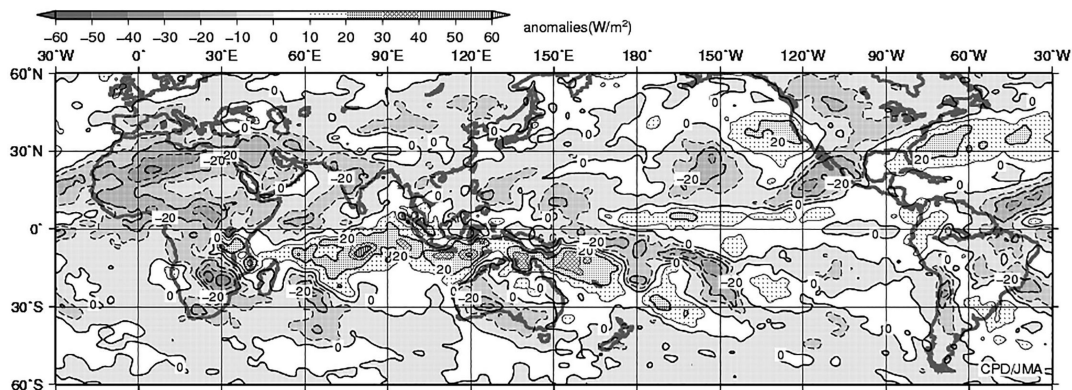
2018年2月の北半球月平均500 hPa 高度及び平年偏差

等値線間隔は60 m。陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

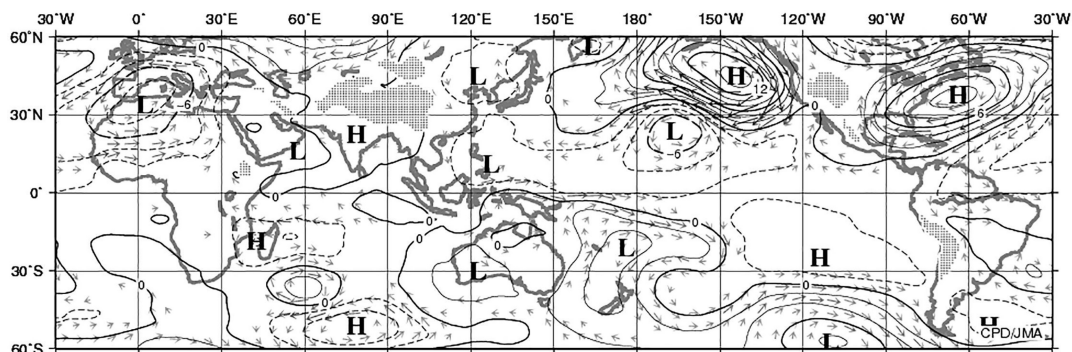


2018年2月の北半球月平均200 hPa 風速及び風ベクトル

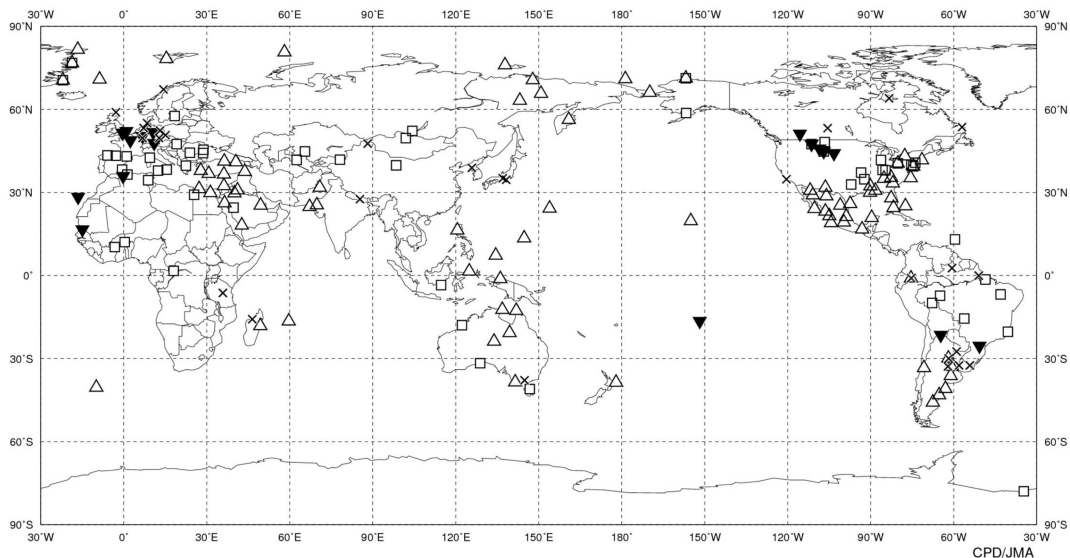
等値線間隔は20 m/s。太実線は平年の風速で等値線間隔は40 m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



2018年2月の月平均外向き長波放射量年偏差
 等値線間隔は10 W/m²で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁（NOAA）より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981～2010年の平均値。



2018年2月の月平均850 hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル
 流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981～2010年の平均値。



2018年2月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
 異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。